相模原市
リニア駅周辺
まちづくり
ガイドライン

（案）

令和５年１月　意見聴取用

目次

01 まちづくりガイドラインについて

1. はじめに
2. 対象区域
3. 位置づけ

02 橋本駅周辺について

1. これまでのまちづくり
2. 広域交流拠点の形成
3. 橋本駅周辺のポテンシャル

03 まちの将来像

1. まちづくりの方向性
2. まちづくりのコンセプト
3. 駅まち一体のまちづくり
4. まちづくりの骨格

04 まちづくりの誘導方針

- 土地利用
- 交通・ネットワーク
- 公共空間
- 景観
- 環境
- 防災

05 まちづくりの実現に向けて

1. 今後の進め方
2. 運用体制・エリアマネジメント

1. はじめに

相模原市は、首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）の開通やリニア中央新幹線（以下「リニア」という。）の駅設置、相模総合補給廠の一部返還、小田急多摩線延伸の促進等を契機に、橋本駅及び相模原駅周辺を首都圏南西部における「広域交流拠点」と位置づけ、周辺都市からの求心性を高める都市づくりを推進しています。

橋本駅周辺では、リニアの駅設置を見据え、広域的な交通ネットワークの形成を図るなど、恵まれた交通の要衝としての機能をより一層強化するほか、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が広域的に交流するゲートとして多様な都市機能の集積を促進し、「産業の活力と賑わいがあふれる交流拠点」の形成を推進しています。

橋本駅南口では、リニアの駅設置に伴う相原高校の移転が完了したことから、今後の土地利用の転換に向け、相原高校跡地を中心に土地区画整理事業をはじめとした基盤整備を推進しています。

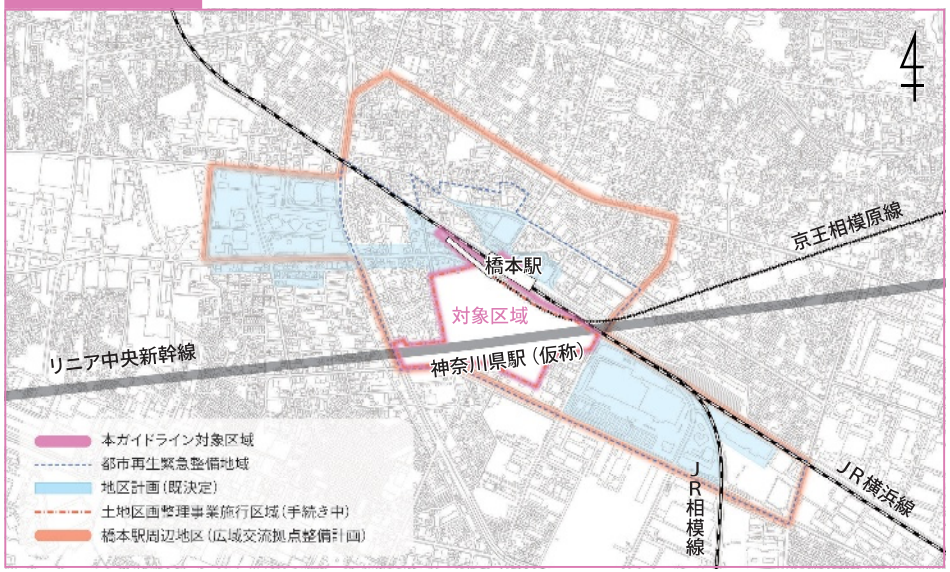
土地利用の転換に当たっては、「まちの将来像」と「まちづくりの誘導方針」を示し、市民・企業・関係団体・行政などと共有し、多様な主体との連携・協働による持続的に発展するまちづくりに取り組むことを目的として、「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン」（以下「本ガイドライン」という。）を策定します。

本ガイドラインにおいては、市民・学識経験者・公共交通事業者・関係団体の意見なども踏まえたまちづくりの誘導方針を定めることとし、地区計画の決定や景観形成重点地区の指定などに向けた検討の指針とします。また、規制化しない事項についても、推奨・奨励すべき内容として整理を行い、魅力的な市街地の形成を誘導します。

2. 対象区域

本ガイドラインの対象区域は、土地区画整理事業や鉄道関連事業により具体的な市街地整備が予定されている区域とし、対象区域外との連携に配慮しながら検討をしていきます。

本ガイドラインの対象区域



3. 位置付け

上位計画に加え、本地域を取り巻く状況及び施策や検討会の動向と、国内外における都市の潮流を踏まえ、まちづくりの誘導方針の具体化を図ります。

1. 上位計画

第二次国土形成計画（国土交通省） 策定：2015.8	首都圏広域地方計画（国土交通省） 策定：2016.3	かながわ都市マスタープラン（神奈川県） 改定：2021.3	相模原市総合計画（基本構想、基本計画） 策定：2020.3
相模原市都市計画マスタープラン 改定：2020.3	相模原市立地適正化計画 策定：2020.3	相模原市景観計画 策定：2010.3	その他上位計画

相模原市

広域交流拠点都市推進戦略 策定：2014.6	広域交流拠点基本計画 策定：2014.6	広域交流拠点整備計画 策定：2016.8

2. 本地域を取り巻く状況／施策や検討会の動向

土地利用の動向

- くらしを支える商業施設、公共施設、文化施設の集積
- ものづくり産業・大学・研究施設の集積

関連施策：さがみロボット産業特区（神奈川県）（2013.2 ～現在）

関連計画：都市づくりのグランドデザイン（東京都）（策定：2019.2）

まちづくりの進捗

- 圏央道の開通、市内に２カ所のインターチェンジが開設（2015.3）
- リニア神奈川県駅（仮称）の工事着手（2019.11）

関連検討会：スーパーメガリージョン構想検討会（2017.9 ～ 2019.5）

- 土地区画整理事業、都市計画道路の都市計画決定（手続き中）

3. 国内外における都市の潮流

AI、IoT 等の先端技術活用

- AI、IoT、次世代モビリティ、MaaS等の先端技術やスマートシティの技術革新に支えられた人間中心の社会・都市の実現に向けた検討

関連施策：スマートシティ官民連携プラットフォーム（内閣府・総務省・経産省・国交省）

→データ利活用型スマートシティ推進事業・地域新MaaS創出推進事業・スマートシティモデル事業・新モビリティサービス推進事業等

コンパクト＋ネットワークの推進

- 集約型都市構造による持続可能なまちづくり

関連施策：国土のグランドデザイン2050（策定：2014.10）

ウォーカブルなまちづくりの推進

- ウォーカブルなまちづくりによる賑わい創出の検討、推進

関連施策：「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりの推進（2019.7 ～ ）

環境共生型社会の構築

- 2050年脱炭素社会実現を目標としたグリーントランスフォーメーション推進、グリーンインフラ導入・活用推進、ライフスタイル転換

関連施策：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム（2020.3 ～ ）

関連検討会：国・地方脱炭素実現会議（ 2020.12 ～ ）

相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン

1. これまでのまちづくり

軍都計画による都市建設
軍事施設や工場を中心に、面積1600ha、人口10万人規模の新都市を建設。

工業団地の集積
ものづくり産業の拠点として、まちが成長。

橋本駅北口地区再開発
大規模商業施設、住宅、公共施設の整備が進み、生活利便性の高い中心市街地として発展。

駅周辺再開発
橋本大山町地区、橋本都市拠点地区を中心に、工場跡地を住宅、大規模商業施設、公共施設等の複合市街地として活用する開発が進展。

相模原市広域交流拠点都市推進戦略
相模原市広域交流拠点基本計画

相模原市広域交流拠点整備計画

圏央道相模原インターチェンジの開設

土地区画整理事業
都市計画道路の都市計画決定（予定）

明治 41 年（1908）
昭和 6 年（1931）
昭和 14 年（1939）
平成 2 年（1990）
平成 25 年（2013）
平成 26 年（2014）
平成 27 年（2015）
平成 28 年（2016）
令和元年（2019）
令和 5 年（2023）
令和 9 年（2027）
令和 19 年（2037）

橋本駅開業（横浜鉄道）※現 JR 横浜線
安定した地盤である相模原台地の上に橋本駅が開業し、市街地形成がはじまる。

JR相模線乗入れ

京王相模原線開通
東京都心へのアクセス性が向上。

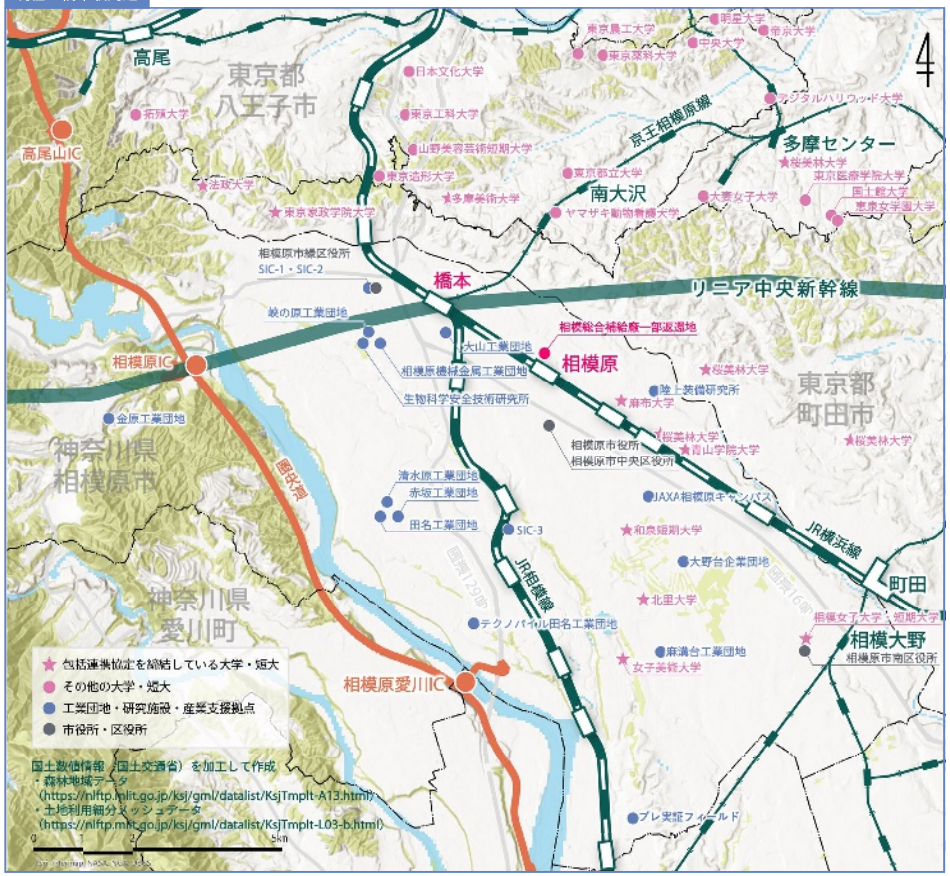
橋本駅南口への
リニア駅設置発表

県立相原高校移転
跡地でリニア事業に伴う工事開始

リニア
品川−名古屋間開業（予定）

リニア
品川−大阪間開業（予定）

現在の橋本駅周辺



くらしを支える中心市街地として発展

橋本駅は鉄道 3 路線が乗り入れる交通結節点として、本市をはじめ、東京（新宿、八王子）方面、横浜方面、湘南方面と連絡し、1 日当たりの乗降客数は約 23 万人※の、通勤、通学の玄関口となっています。

橋本駅周辺には商業施設や行政施設、文化施設等が立地し、北口地区を中心に生活利便性の高い、くらしの拠点が形成されています。北口では、毎年8月に本市の夏の3大祭りの一つである橋本七夕まつりを開催しています。

※ 2018年度国土数値情報（駅別乗降客数データより）

ものづくり産業の成長を支える拠点

内陸工業都市として発展した本市には、「JAXA 相模原キャンパス」をはじめとした研究施設が立地し、元県立高校の校舎やグラウンドを活用した「プレ実証フィールド」では、ロボットの試作段階での実証実験が行われています。また、市内だけでなく近接する多摩地域にも大学が集積しています。

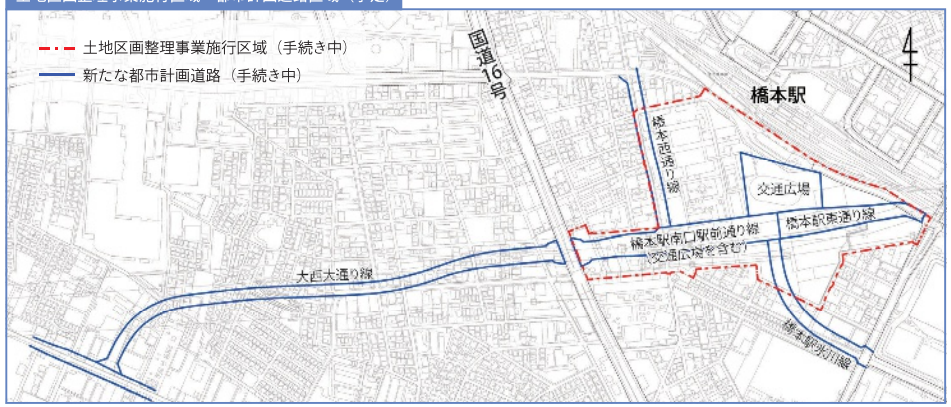
本市では「さがみはら産業創造センター（SIC）」を設立し、新たな産業構造の変化への対応、新事業の創出・企業の新分野進出を支援しています。

橋本駅南口のまちづくり進捗状況（令和４年１０月時点）

土地区画整理事業及び圏央道相模原インターチェンジへのアクセス道路等の都市計画決定手続きを進めています。

また、現地ではリニア駅の新設工事が行われています。

土地区画整理事業施行区域・都市計画道路区域（予定）



2. 広域交流拠点の形成

・リニアや圏央道、在来線により相模原市を結節点として広域とつながります。
・国の首都圏広域地方計画では、リニアの神奈川県駅（仮称）を含むエリアを首都圏南西部国際都市群として位置付け、「首都圏の新しい拠点形成を図る」としています。
・相模原市では、橋本駅及び相模原駅周辺の一体的なエリアにおいて、多様な都市機能の集積を促進するとともに、アクセス性の高い立地特性を生かし、首都圏南西部における広域交流拠点の形成を目指しています。

大交流リニア都市圏の形成

東京圏・名古屋圏・関西圏の三大都市圏※1 が一体化し、都市圏人口6600万人※2、都市圏におけるGDP は日本全体の約57% ※3 になると想定されています。

リニアの開業により、橋本・品川間は約 10 分（約 40 分短縮）、橋本・名古屋間は約 60 分（約 60 分短縮）に所要時間が短縮され速達性が向上します。

※1　三大都市圏：東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・愛知県・岐阜県・三重県・大阪府・京都府・奈良県・兵庫県
※2　都市圏人口：2020 年総務省住民基本台帳
※3　都市圏における GDP：国際連合データベース、内閣府「県民経済計算」より算出

圏央道によるアクセス性向上

圏央道の開通及び市内に２カ所のインターチェンジの開設により、研究機能や物流機能が集まる湘南、八王子、つくば等首都圏郊外の主要都市へのアクセス性が向上しています。

今後、圏央道相模原インターチェンジへのアクセス道路を整備することにより、さらなるアクセス性の向上が見込まれます。

広域圏における橋本の位置付け

3. 橋本駅周辺のポテンシャル

ものづくり産業・大学・研究施設の集積

本市は、産学官金の連携による地域のプラットフォームとして、「さがみはらロボットビジネス協議会」を設立したほか、ロボット産業をＳＴＥＰ５０のリーディング産業に指定するなど、ロボット関連企業の集積やビジネス支援に取り組んでいます。

神奈川県が推進する「**さがみロボット産業特区**」に位置付けられ、生活支援ロボットの実用化と普及に向けた産業・研究関連施設の集積が進んでいます。

東京都が「**多摩イノベーション交流ゾーン**」と位置付けるエリアを中心に、大学や企業、研究施設等が集積しており、道路・交通ネットワークを生かした多様な人々の交流や、多様なイノベーションの創出に向けた取組が推進されています。

多様な人々の往来

鉄道３路線の交通結節点である橋本駅周辺では、北口地区を中心に住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が行き交う中心市街地を形成しています。

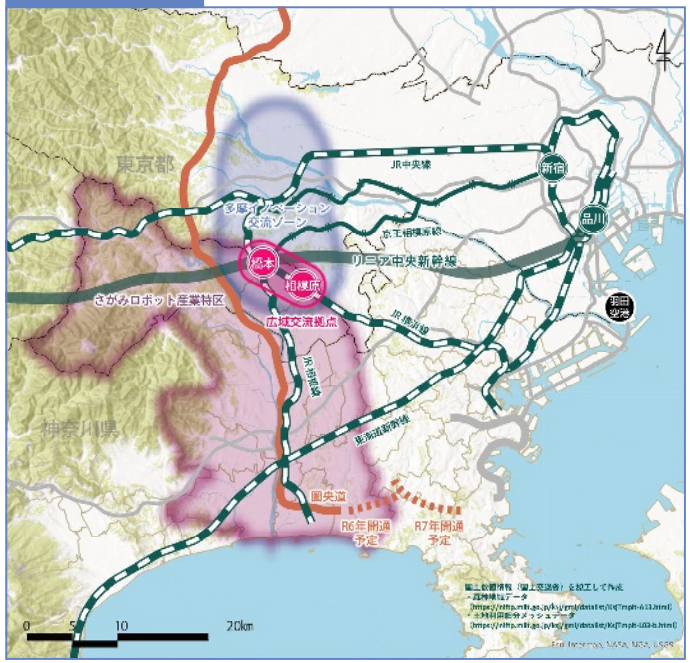
リニアの開業により、市内はもとより、国内外からも多様な人々が訪れることで、更なる出会いと交流が生まれることが期待されます。

豊かな自然環境

本市は広大で美しい山なみや豊富な水資源を有しており、市域の約６割を森林が占めています。

市の西部を中心とした豊かな自然環境と橋本駅周辺の都市部との連携による、環境共生型ライフスタイルの実現が期待されます。

橋本駅周辺を取り巻く環境



広域交流拠点
さがみロボット産業特区※1
多摩イノベーション交流ゾーン※2

※1 さがみロボット産業特区

神奈川県の 10 市 2 町（相模原市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町、愛川町）を対象に、生活支援ロボットの実用化を通じた地域の安全・安心の実現を目標として、ロボットの開発・実証実験の促進、普及啓発や関連産業の集積促進に取組むエリア。

※2 多摩イノベーション交流ゾーン

多摩地域の中でも特に大学や企業、研究機関などが集積している地域。リニア中央新幹線や圏央道、多摩都市モノレールなどの道路・交通ネットワークを生かした域内外との交流の活発化や、積極的に「挑戦」できる環境を整えることで、多様なイノベーションの創出に向けた取組が推進されています。

1. まちづくりの方向性

リニアや圏央道、鉄道３路線により広域とつながる橋本は
ものづくり産業の集積、多様な人々の往来、豊かな自然環境など
多くのポテンシャルを有しています。

そのポテンシャルを活かし、最新の都市の潮流や技術を柔軟に取り入れ、
橋本ならではの一歩先のくらしを実現します。

そして、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が出会い、
つながることで生まれるイノベーションにより、
循環・発展をつづけ、未来を拓くまちを目指します。

橋本で期待される未来

先端技術に支えられた快適なまち

- さがみロボット産業特区や多摩イノベーション交流ゾーンに集積するものづくり産業・大学・研究施設等と連携した拠点が形成され、高度人材、企業等のオープンイノベーションが促進されています。
- ロボット、生活支援技術、ICT 等の先端技術が日常生活に浸透し、スマートシティが実現しています。

▶ オープンイノベーション

組織内部のイノベーションを促進するために、意図的かつ積極的に内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流出入を活用し、その結果組織内で創出したイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすこと。（経営学者　ヘンリー・チェスブロウ）

▶ スマートシティ

ICT（情報通信技術）等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域。（内閣府）

駅を起点とした歩いて楽しいまち

- 様々な交通が適切に誘導され、乗り換え利便性の高い交通ネットワークを形成することにより、公共交通の利用が促進されています。
- まちなかに人々が集い、安心安全に過ごすことができる歩行者空間が形成されています。

▶ ウォーカブルなまちづくり

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目的として、まちなかを、車中心から人中心の空間へと転換することで、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと改変すること。（国土交通省）

コンパクトでくらしやすいまち

- 橋本駅を中心に複合的な都市機能が集積し、生活利便性が高く誰もがくらしやすいまちが実現されています。
- 相模原駅と連携した交通ネットワークに支えられ、周辺市街地からアクセスしやすい中心市街地が形成されています。

▶ コンパクト＋ネットワーク

医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を検討すること。（国土交通省）

自然環境と連携した脱炭素社会

- 近接する豊かな自然環境と連携した、本地区ならではの環境共生型ライフスタイルが確立されることにより、脱炭素社会が実現されています。

▶ 脱炭素社会

地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを実現する社会のこと。温室効果ガスの排出量を抑制し、排出された二酸化炭素を回収することで、温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする。（環境省）

2. まちづくりのコンセプト

リニアでつながる

一歩先の未来を叶えるまち橋本

くらしを変える先端技術の拠点となる

広域の産業・研究開発機能と連携する拠点を形成し、
生活支援技術をはじめとした、先端技術がそばにあるまちを目指します。

新たな価値を創造する土壌がある

リニアがもたらす人々の交流や活動の圏域の拡大を活かし、
まちに集まる多様な人々をつなぎ、出会いの連鎖を引き起こすことで
新たな価値を創造します。

環境共生型ライフを実現できる

都市部での脱炭素型まちづくりと豊かな自然環境との連携により
環境共生型ライフスタイルの実現を目指します。

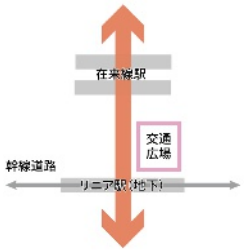
3. 駅まち一体のまちづくり

橋本では駅や交通広場、自由通路といった交通結節機能と周辺街区を一体的に捉え、相互に調整を図りながら空間整備や機能配置を行い、駅まち一体のまちづくりを促進します。

京王駅の移設と合わせて、3つの鉄道駅と南北のまちをつなぐ都市軸を中心に回遊性を向上させるとともに、複合的な都市機能の集積を促し、多様な人々の連携を誘導することで、まち全体の魅力の向上を目指します。

橋本における駅まち一体のまちづくりの考え方

● 鉄道駅、交通広場と南北のまちをつなぐ

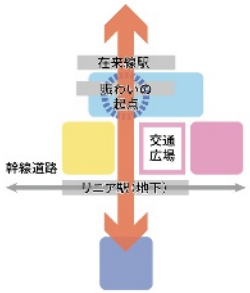


「交流・賑わい軸」により、まちの回遊性や交通結節機能が強化され、まちに賑わいがひろがります。
京王駅は乗換利便性や賑わいの創出のため、「交流・賑わい軸」上への移設を前提にまちづくりを検討しています。

⟷ 交流・賑わい軸

3つの鉄道駅、交通広場と南北のまちをつなぐ軸。
沿道の賑わい施設や広場と一体的に連携し、
人が集い活気と賑わいに満ちたメインストリート。

● 複合的な都市機能を集積させる

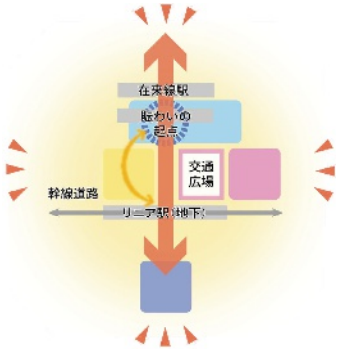


交通結節機能を生かした賑わいの起点を形成し、駅まち一体のまちづくりを牽引します。
交流・賑わい軸と交通広場に面した「4つのゾーン」では、特色のある都市機能を集積させ、多様な人々の活動拠点を形成します。

4つのゾーン

- 駅まち一体牽引ゾーン
- 広域交流ゾーン
- 複合都市機能ゾーン
- ものづくり産業交流ゾーン

● 多様な人々の連携によりまち全体の魅力が向上する



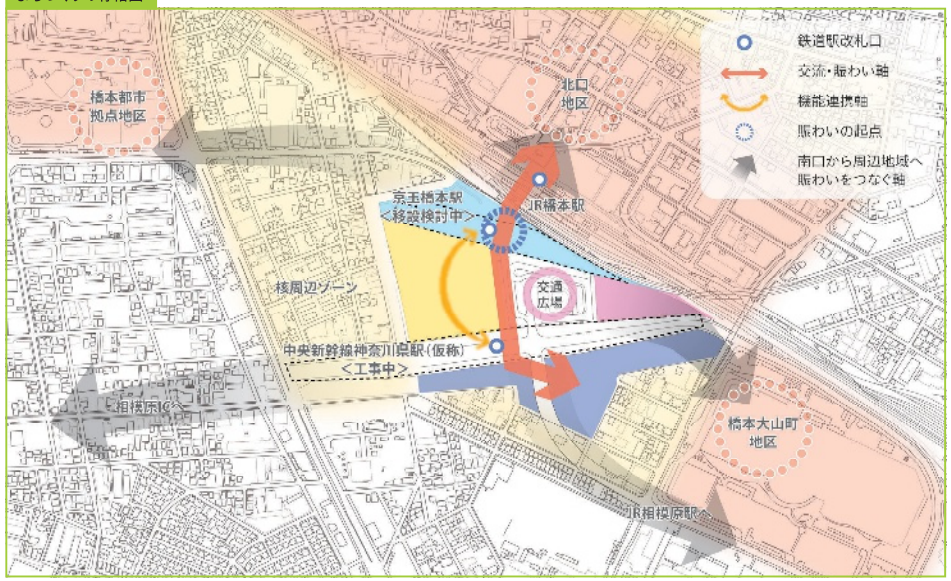
「機能連携軸」を中心に多様な人々が出会い、連携することにより、まちの循環と発展を促進し、まち全体の魅力が向上します。

機能連携軸

心地よく過ごすことができる回遊・滞留の軸。
回遊性が高い歩行者空間により、リニア駅や在来線側の賑わいの起点と、複合的な都市機能が集積する複合都市機能ゾーンの施設や広場をつなぐ。

4. まちづくりの骨格

まちづくりの骨格図



駅まち一体牽引ゾーン

- 広域交流機能と複合都市機能を併せ持つ、駅と街区が融合した「駅まち一体のまちづくり」を牽引するゾーン。
- 京王駅移設を契機に、在来線駅の結節点で新たなまちの顔として中心的な賑わいを形成しつつ、交通広場と連携した交通結節機能や南北のまちをつなぐ歩行者空間を整備します。
- 駅を起点としたまちの利便性向上と、駅とまちの一体感の醸成、まち全体へ賑わいの波及に貢献します。

広域交流ゾーン

- 圏域全体の観光、物産、産業等に関する交流や情報発信の拠点となるゾーン。
- 交通広場と連携した交通結節機能や広場機能の導入を図るとともに、まちの発展に合わせ、多様な人々の交流を促す空間を創出し、社会課題の解決を目指した実装や実証などのトライアルを行うことで、まち全体の新たな魅力を創造します。

複合都市機能ゾーン

- 働きやすさ、住みやすさ、過ごしやすさを兼ね備えた、誰もが心地よく過ごせるゾーン。
- 子どもから高齢者まで様々な世代の活動を支える複合的な都市機能の導入を図るとともに、回遊動線と滞留・憩いの場を形成します。
- 複合的な都市機能と空間の融合により、橋本ならではのライフスタイルを実現します。

ものづくり産業交流ゾーン

- 地区内外への産業集積を牽引するゾーン。
- 研究、インキュベーション、交流等の機能の導入を図るとともに、情報発信やイベントの開催等により、交流・連携を促進します。
- 先行的な土地利用を視野に入れ、圏域内外のものづくり産業のさらなる発展や新たな技術創造に貢献します。